

どうなってる？ 東海村の広域避難受入

関戸 勇 議員

問 東海第二原発の過酷事故を想定した東海村からの広域避難に関し、東海村との協議状況は。

答 総務部長 7月1日、守谷市、つくばみらい市と当市の3市により、協議を行った。8月8日には、東海村も加えて3市1村で7月1日の協議内容を確認した。また、8月22日には、東海村、山田村長と意見交換を行った。

問 避難が長期間になった場合、食料の確保、冷暖房、プライバシーの確保など、十分な配慮が必要。これができなければ受け入れた際、大変なことになる。安全安心対策課長 3市1村の協議では、避難期間を1カ月以内と確認している。長期化する場合は、東海村、茨城県では、ホテルや旅館に移動できる体制、公営・賃貸住宅の活用を考えている。

問 東海第二原発に使用済み核燃料がある限り、過酷事故が起きる可能性がある。原発を再稼働させないことがリスクを減らす。東海村との協議ではどうか。
答 3市1村で話題は上がっていない。

将来も持続可能なまちづくり

結城 繁 議員

問 都市再生特別措置法が改正され、行政と住民、民間事業者が一体となったコンパクトなまちづくりを推進するため、立地適正化計画制度が創設された。国交省ホームページには、立地適正化計画作成の具体的な取り組み都市として取手市がある。市民参加と自治体内部の他部局との連携をしっかりと行い、取り組んでほしいが。

都市整備部長 ウェルネスプラザや歩行者デッキの整備が一定の評価を受けているものと考えている。立地



ウェルネスプラザなど取手駅西口地区

適正化計画については、都市機能の適正な配置について検討するもので、平成29年度に着手の予定で検討を進めている。

問 立地適正化計画を策定し、誘導施設への税の優遇や規制緩和措置が行われ、もっと大きな医療機関や福祉施設が有利に誘導することも必要ではないか。
答 進出する事業者により、メリットがある仕組み。

加速する高齢化、困窮

落合 信太郎 議員

問 市の高齢化率は30%を超え、約3人に1人が65歳以上の現状がある。市の現状認識は。

市長 7月1日現在、市の高齢化率は31・72%。高齢社会の到来をいち早く予測し、スマートウェルネスシティー首長研究会や市民大学特別講座など先進的な取り組みを進めてきた。今後

も自立し、安定した生活を送ることができると期待している。

問 生活保護世帯の実態や高齢者の受給世帯の実態は。
福祉部長 8月25日現在、生活保護受給者世帯は745世帯、933人。そのうち65歳以上の高齢者世帯は397世帯、518人。昨年と比較すると9世帯増、

高齢者数では30人の増。生活に困窮する高齢者も増えていると感じている。

問 生活困窮自立支援制度がスタートしたが、実績は。
答 相談実績は156件、うち65歳以上が47件。

問 フードバンクと提携し、困窮者に物資を提供している状況は。
健康福祉部次長 27年度、社会福祉協議会では、精米135・7キ、食料品133・7キ、その他カップ麺、缶詰等をお配りした。

長町排水樋管排水能力強化を

加増 充子 議員

問 青柳地区の内水対策は待ったなし。青柳1号雨水

幹線の整備や断面を拡幅するなど考えるべき。
建設部長 青柳1号雨水幹線は既に完成されている。今後、下水道組合と検討していきたい。

問 長町樋管の排水機場化が必要。
建設部次長 排水機場整備の設置には多額の費用がかかる。国の補助金制度の活用を検討してきたが、排水機場整備と堤防改修がセットのため事業化が難しい。

問 周辺の民間大規模事業者に工場敷地内での調整池、貯留槽施設設置を求めるとの考えは。
建設部長 話はしている。敷地整備に併せて貯留施設の設置等を頭に入れておくとの回答をいただいている。

問 排水路の清掃を小まめに行うべき。
答 26年度と比較し、倍近い予算を組んで、必要に応じて行っている。

とりで行政経営改革プラン2016

飯島 悠介 議員

問 事務事業評価をどのように進めていくのか。
政策推進課長 重点事業に特化して評価し、それを次年度に生かしていくことで、総合計画の目標達成に役立つ評価となる。

問 対象事務事業396の

うち88が改革改善と評価された。改革の取り組みは。政策推進部長 責任を持つて改革改善結果を次に結びつけるシステムが職員間でできている。

問 職員の目だけで事務事業評価をすることには限界がある。市民によるチェック制度の導入を。
市長 外部評価はそれにふさわしい局面とそうでないものがある。今やっていることは無駄なのかというレベルは実施してきており、必要ない。私たちが着眼していないものを業務化するために有識者などの知恵を頂くことは必要と考える。

問 小文間小跡地利用の動きは。
市長 小文間小は、地元住民の土地寄贈によって設けられた場所。しっかりと残して地域の人を主としての利用を考えていきたい。



旧小文間小学校